

桜工

2019



目 次

新校舎『タワー・スコラ』完成特集	
「タワー・スコラ（仮称 南棟）」の建築について	
「今村 雅樹」……	2
設計：「木戸 威」／建築：「仲林 清文」……	4
電気：「久保 徹」／設備：「鈴木 和也」……	5
活躍する校友	
物づくり、人づくり、土木技術者として「飯島 知哉」……	6
誇り高い、元気なまち沼津を目指して「頼重 秀一」	
グローバルで活躍するエンジニアになるには「吉澤 智哉」……	7
好きな鉄道と仕事「伊藤 謙」	
人生の証を残す「市原 英樹」……	8
異分野への挑戦「大島 朋美」	
数学科でコンピューターを学ぶ意義「真壁 一弘」……	9
交通対策を担当して「中野孝之助」	
特許の調査「永岡 美雪」……	10
空気を読むのではなく、空気を作る集団でありたい	
「伊藤 昌明」	
様々な人と議論「中村 大地」……	11
Realize your dreams 未来を見据えて「北口 想」	
各部会（学科）周年行事	
電気学科創設90周年記念事業……	12
物質応用化学科（工業化学科）創設80周年記念事業	
展開される……	13
数学科創設60周年記念行事開催……	14
海洋建築工学科創設40周年記念行事	
「航空宇宙工学科創設40周年を祝う会」を学科と共同開催……	15
「電子工学科創設40周年を祝う会」開催	
入試・進路……	16
部会だより……	20
土木／建築／機械／電気／工業化学／精密機械／交通／物理	
数学／海洋建築／航空宇宙／電子／まちづくり／情報	
支部一覧……	27
支部だより／クラス会だより……	29
理工学部・校友会NEWS……	33
理工学部校友会奨学生証書授与式／工科系校友会支部長会	
開催等／工科系校友会連絡会／各部会講演会活動報告	
事務局だより（事務報告・収支報告等・会費納入者名簿）……	36
平成30年度第三十回「桜工賞」……	38
ホームカミングデー開催「学び舎に帰ろう」……	39
理工学部校友会教育支援「未来博士工房への支援」……	39

新校舎関連

「タワー・スコラ（仮称 南棟）」の建築について

駿河台キャンパス南棟建設実行専門委員会・副委員長

今村 雅樹

建築学科・教授

(建築学科：S52 年卒)

(建築学専攻 博士前期課程：S54 年修了)

2011 年の東日本大震災から早 8 年が過ぎた。当時は余震も頻繁に続いており、駿河台キャンパスで私の研究室にいた留学生達が、大変怯え動揺して「私はどうになってしまうのか、日本は終わりなのか…」と、毎日のように聞いてきたのが今も脳裏に焼き付いている。幸いにも 5 号館は免震レトロフィットにより再生されたばかりだったので難を免れたが、他の老朽化した号館（新 1 号館と再生 5 号館は避難場所となった）は少なからず被害も出ていた。



「タワー・スコラ」の計画は、急務となった。それまでも駿河台・船橋両キャンパスとも既存の校舎については、年度を追って「耐震診断とアスベスト調査」が行われていたのだが、この大震災のリアルを目の当たりにし、100 年前の関東大震災・帝都復興計画の佐野利器先生たちの基本計画^{図1}や千代田区の「神田駿河台まちづくり基本構想」^{図2}も重なって、タワー・スコラの実現が加速したと思っている。

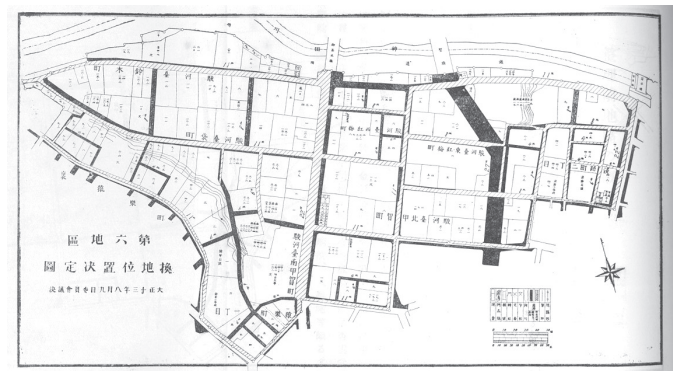


図1：関東大震災帝都復興計画・駿河台地区（出典：東京市役所編（1931）帝都復興区画整理誌）

※黒い「く」の字に曲がった幅広い道路が「本郷通り」ヴァールバール計画

「タワー・スコラ」の建築計画

理工学部内では「駿河台キャンパス南棟校舎基本計画検討委員会」が各学科の担当教授により組織され、さらに建築・土木系専門家による「建設実行専門委員会」が構成され、計画案の策定が何案も行われた。以下にそのスタディ

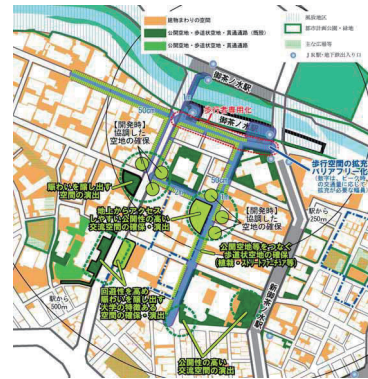


図2：2006 年 千代田区「神田駿河台まちづくり基本構想」歩行者空間の計画より

の途中を掲載するが、現在のタワー・スコラと比較してみると、将来の「北棟」へ持ち越しになった「図書館」「ギャラリー」「レストラン」などが初期の計画には盛り込まれていたのがわかる。図3・図4

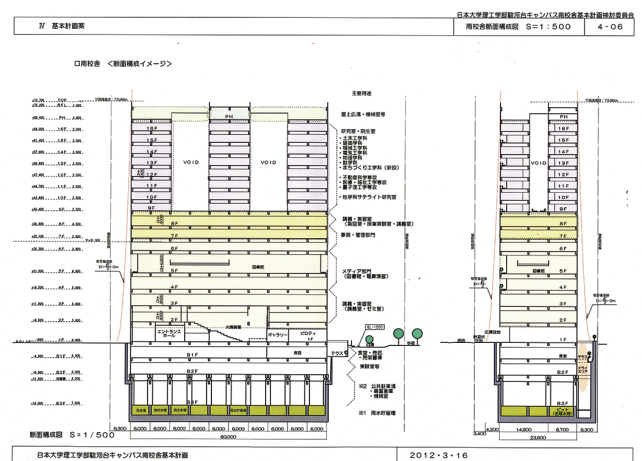


図3：2012 年南校舎基本設計断面スタディ（案：駿河台キャンパス南校舎基本計画検討委員会）

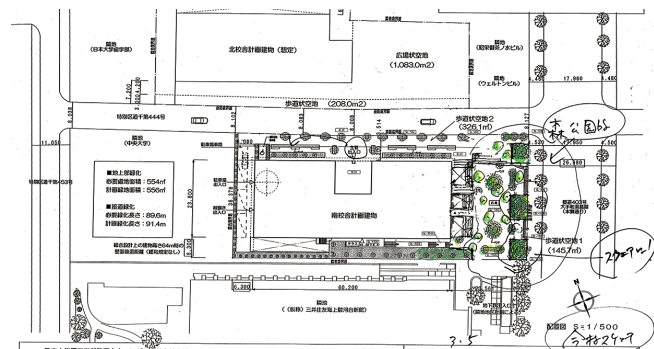


図4：同 配置外構計画スタディスケッチ案

竣工完成までのこの 8 年の間には、「6・9 号間の解体から新校舎建設までの建替えフェイズ計画」が重要であった。まず、この密集している駿河台エリアで大学所有の空き地（建替え時のタネ地として）はなく、神田の旧小学校跡地をプレハブ校舎用地として計画案を作ったこともあった。検

新校舎関連

討委員会の中でもできれば再生5号館は残して「特区」として容積を稼ぐ案、7号館との間の区道を付け替えて「3・4・5・6・7・9号館敷地を一体」にして容積を稼ぐ案なども検討されたが、それだけのメリットが確認できず、諦めざるを得なかった。

最終的には「総合設計制度」を使っでの最大容積確保の計画としたが、大通り「本郷通り」に唯一面している「5号館」を解体し、一体的に「5・広場・9・6号館」エリア開発をすることが現実的なものとなった。図5

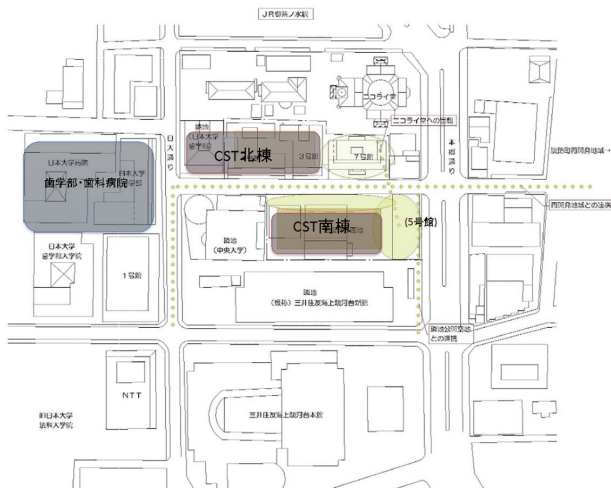


図5：タワー・スコラ（CST 南棟）と駿河台地域の日大キャンパス計画の配置関係

学生の居場所を創る、積層されるキャンパス「タワー・スコラ」

かつて5号館と9号館の間にあった学生憩いの場「中庭」は、隣接する三井住友海上火災保険の高層ビル化によって、陽は射さず暗く寒い場所となってしまった。もともと、駿河台キャンパスは、パリのカルチェラタンのように「学生街」という街中キャンパスの都市性を謳歌する場所であったが、近年の企業進出と再開発やカフェ文化の変貌などによって、学生たちの生活も大きく変化してきた。授業日数も増えレポートに追われる理科系の学生たち、就職活動や入試の高校生達へのケアも必要な時代へと変わり、大学の価値も多様化してきたのである。

そのような変化の中で、研究内容や大学情報発信の仕方、学生たちの大学内での居場所の確保、神田駿河台地域との共生の仕方等々、単なる勉強の場所だけでなく、先生も学生も多様な都市生活者としての「居場所」の作り方が重要なキーワードとなった。

昔の学生が平面的に駿河台エリアを動いていた「旧カルチェラタン」から、現代の垂直断面方向に動く「新カルチェラタン」構想へ、「タワー・スコラ」の概念である。よって、憩いの場であった「中庭」がニコライ堂側に顔を

出す「空中テラス」「学科内吹抜けラウンジ」として変容し中間層の要所に設けられ、各学科学部の学生達の多様な居場所を設けた計画となっている。図6、図7

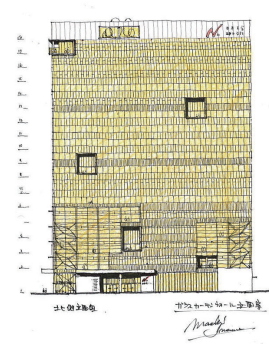


図6：立面スタディ（積層するカルチェラタン：2014年1月）

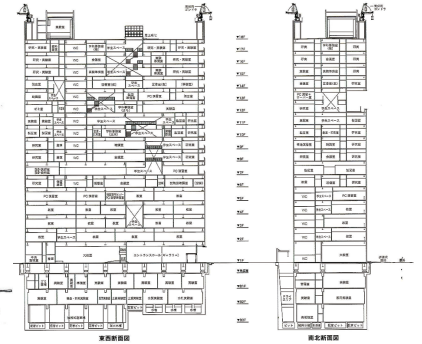


図7：タワー・スコラ断面図（図面の中X部分が吹き抜けや学生ラウンジ）

同じ理工学部であっても、各学科の必要とする教育のための施設プログラムは様々である。例えば数学科は「図書室」そのものが重要で、建築学科は「設計室や実験室」、ある学科は「研究室の中の実験室」を持つ・・・というように多様な住民達の「住まい方」を学問研究のあり方によって計画することが重要であった。この多様な学科の研究室群をゾーンで積層すると図7のような断面を持つ建築になったということである。

地下階にはハードな機械設備を持つ実験室群が配置され、地上部は免震層で地震の揺れを吸収し、制振装置でさらに変形を抑えるという安全性が重ねられた構造となっている。屋上にも外界の音を遮断する繊細な音響系実験室が設けられ、建築全てが余すところなく教育・研究のための空間となっている。

「北棟」そして「西棟」へ

タワー・スコラ（南棟）は、最終ページ（裏表紙）の写真の左側道路（本郷通り）に面した「再生5号館」が解体され、今年の7月には桜の広場となり、理工学部100周年記念モニュメントが設置され完成する。その後、何年か後には「北棟」がニコライ堂に面した7・3・4号館跡に建設され、2敷地間の区道上部を2階レベルのブリッジで「タワー・スコラ」と繋げる計画である。

明大裏の「西棟」計画まで完成すれば本来の完成と言えるのだろうが、このニコライ堂エリアの駿河台キャンパス構想は、ひとまずここで「図書館」「ギャラリー」「レストラン」「ニコライ堂との共生計画」などを含めて一応の最終フェイズを迎えるであろう。



「タワー・スコラ」空撮写真：左に本郷通りと5号館（7月には桜の広場とモニュメント）、右下にニコライ堂と7・3・4号館（北棟敷地）

2020 年
日本大学理工学部創設 100 周年
短期大学部（船橋校舎）70 周年



編集後記

「平成」がスタートした年の桜工71号では、「日本大学創立100周年によせて」を記載しました。翌平成2年に発刊した桜工72号では、理工学部創設70周年および工科（現・理工学部）校友会創設40周年の特集を組みました。それから30年後、「平成」最後に当たる今年度の桜工101号では、理工学部創設100周年を目前して駿河台校舎6号館および9号館跡地に竣工された新校舎「タワー・スコラ」について特集を組みました。新校舎の完成とその様相を校友の皆様にお伝えできることは嬉しいかぎりです。

また今年度は、開催順で記すと、物質応用化学科（工業化学科）創設80周年、海洋建築工学科創設40周年、電気工学科創設90周年、航空宇宙工学科創設40周年、電子工学科創設40周年、数学科創設60周年の祝賀会が行われました。お祝いを申し上げます。

振り返ってみますと、「平成」の時代は自然災害の多い時代でもあったかと思います。各地で被災され、苦闘し、頑張り抜いて復旧・復興に取り組まれている校友のご様子を何うにつけて、校友会誌でその様子を多くの校友の皆様にお伝えし、励ましや支援の一端を担えればと思いから、東日本大震災を契機として桜工94号から特集を組んできました。しかし、今年度は全国的に様々な災害が発生し、限られた紙面の中に組み込むことできず、次号以降「災害復興特集」のような形で編集して参ります。ご理解賜れば幸いです。被災された皆様の一日も早いご回復を祈っております。

桜工の編集に当たり、ご寄稿賜った皆様やご協力頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。なお、紙面充実のために読者の忌憚のないご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。今後とも何卒ご協力の程お願い申し上げます。

（文責：会誌副委員長 岩井 茂雄）

会誌委員会（委員長◎、副委員長○）

◎佐藤 信 ○岩井 茂雄 ○角 耀 間宮賀津仁 山崎 栄介 田嶋 和樹 富永 茂 宮城 徳誠 春永 吉雄
太田 延幸 遠山 岳史 出口 真一 加藤 道雄 八田 洋三 居駒 知樹 安部 明雄 佐々木芳樹 石松 玲
高橋 遼

- 住所表示・勤務先・TEL番号等の変更は事務局までご連絡下さい。
 - クラス会等に「桜工」をお送りいたします。（実費&送料が必要です。）
 - クラス会の様子を桜工「クラス会だより」に掲載しませんか？
- 会合名・卒年・学科・開催日時・場所・参加人数を含めお知らせください。

*各詳細・問い合わせ等は理工学部校友会事務局までご連絡ください。

〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台1-8-14
日本大学理工学部内
日本大学理工学部校友会事務局
TEL：03-3259-0650
FAX：03-3293-1370（江口・田中）
ホームページアドレス
<http://www.koyukai-cst-nu.jp/>
メールアドレス
alumni@koyukai-cst-nu.jp

平成31年度通常総会開催予定

日時：平成31年6月28日（金）
会場：東京ガーデンパレス

平成31年3月25日発行

日本大学理工学部校友会

（日本大学工科校友会）



編集・発行者 佐藤 信
〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台1-8-14
電話 03-3259-0650
FAX 03-3293-1370
印刷所 株式会社トーコー印刷